巻頭写真　東京都東村山市下宅部遺跡
Shimo-yakebe site, Higashi-murayama city, Tokyo

武蔵野台地のほぼ中央に，独立丘陵である狭山丘陵がある。下宅部遺跡はその谷間から発見された遺跡である。縄文時代後・晩期を主体とし，古墳時代後期から古代・中世にかけて営まれた水辺の遺跡である。約 20 万点の土器・石器の他に，豊富な木製品・植物遺体・動物遺体などの有機質遺物が出土しており，ここでは縄文時代に関するものを紹介する。

下宅部遺跡を特徴付ける資料として，漆関連遺物がある。ウルシ樹液の採取を行った痕跡を残す材（杭）に始まり，加工調整に使用した土器，赤色顔料を粉砕した石皿と磨石，塗布用のパレットとして用いられた土器や貝殻，そして多くの漆塗り土器・木製品がある。また，漆による土器の補修例も多い。

写真 1　下宅部遺跡遠景.

写真 2　漆液を集めた容器（上）と混入していた夾雑物（左）.

写真 3　ウルシ樹液を採取した傷跡を持つウルシ材の杭（左）と傷の拡大（上）.

写真 4　パレットとして使われた貝殻（ドブガイ）.

写真 5　漆液が染み込んだ編み布（幅約 2 cm）．漆濾し布か製品.

写真 6　漆による補修（胴部のひびの塗り込み）.

写真 7　漆塗り簪？（長さ約 8 cm）.

©2007 Japanese Association of Historical Botany

動物遺体としては，シカ・イノシシの生骨が大量にかつ集中して見つかった。切断痕が残る資料もあり，解体場であったと想定されている。そこに多数の弓（飾り弓・丸木弓）が伴っており，動物の解体に伴う狩猟儀礼の姿が復元されている。植物遺体は，木材・葉・種実等々様々なものが出土している。人為的な遺構としては，クルミ塚（この遺構のみ縄文時代中期に属する）やトチ塚などがあり，水場遺構の杭や構成材として種々の木材が使われている。木製品や編組製品，繊維製品なども豊富である。その他，サルノコシカケ類も多数出土している。

写真 8　漆塗り飾り弓（6 点；右から 9，22，10，13，20（5，6 本目），18 号弓）.

写真 9　折れた弓の上に置かれたイノシシの下顎（狩猟儀礼の様子を示す）.

写真 10　編組製品（49 号編組製品）とアカガシ–ツクバネガシ果実.

写真 11　トチ塚（第 1 号トチ塚）.

写真 12　クルミ塚（第 1 号クルミ塚）.

第 3 号水場遺構は水辺での木材加工の場であり，丸木舟未成品や容器とその未成品をはじめとして，様々な加工痕を持つ木材が集積している。第 7 号水場遺構は堰状の遺構であり，約 200 本の杭と直径 20 cm 以上の丸太を含む構成材からなる。杭の間に丸木材と半割材を落とし込んで 2 段の堰堤とし，川の流れを塞き止めるように横断させている。他に，用途は不明だが，タガ状の留め具で緊縛した刳り抜き材が設置されている。また，周辺からは編組製品が多く出土した。

写真 13　丸木舟未成品（第 3 号水場遺構）.

写真 14　大皿（写真奥）と容器未成品（手前中央）.

写真 15　堰状遺構（第 7 号水場遺構）.

写真 16　二段重ね部分（第 7 号水場遺構）.

写真 17　斜面での丸太の固定（第 7 号水場遺構）.

写真 18　刳り抜き材とタガ状の留め具（第 7 号水場遺構）.

下宅部遺跡からは住居跡は見つかっていない。しかし，川から一段上がった平坦部から，縄文人の精神世界に関係すると思われる遺構が発見されている。川と溝とで区画された範囲には，特殊な埋設土器や焼土跡が群をなしている。また，単独の配石墓があり，朱塗りの耳飾りと石鏃が副葬されていた。土偶や石棒も数が多く，河道部からも平坦部からも出土している。ほかに，耳飾りや実際に吹くことが出来る土笛があり，縄文の世界を髣髴とさせるものがある。下宅部遺跡はこのように集落遺跡ではなく，水を利用し，生活に不可欠な生業活動を行っていた遺跡であり，そうした場にも常に儀礼が伴っていたといえるのであろう。　（千葉敏朗・石川正行　Toshiro Chiba, Masayuki Ishikawa）

写真 19　入れ子状の埋設土器.

写真 20　焼土を伴う埋設土器.

写真 21　配石墓.

写真 22　土偶（3 点）.

写真 23　大型の石棒（全長 113 cm）出土状況.

写真 24　耳飾り.

写真 25　土笛.